

インバウンド再開に伴う
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応ガイドライン

(第 2.0 版)

一般社団法人 倶知安観光協会

2023 年 3 月 13 日



1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、過去3年間において国内および国際的な移動に制限をかけたので、地域住民を感染症から守った反面、観光産業を主とする倶知安町には大きな試練となってしまいました。また、人生の楽しみである、旅をして新しい価値観に触るといふ、多様性を体感してもらう機会をも減少させてしまいました。

本ガイドラインでは、この両方の視点で地域住民の安全と安心を守りつつ、倶知安町において大きな産業であるインバウンド観光を継続することを目的として、地域住民と旅行者の相互理解を深めるために、科学的な根拠に基づいたガイドラインを策定しました。本ガイドラインは、厚生労働省の新しい感染対策ガイドラインと旅行に関する業界団体のガイドラインに準拠したものとなり、地域の意見を取り入れながら、適宜改定していく内容となり、令和5年3月13日からのマスク着用に関する方針にて改訂した内容になります。

- 科学的な根拠に基づいた感染対策

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する新しい科学的根拠（エビデンス）が蓄積され、また倶知安町においてはリゾートエリアでの職域接種など、ワクチン接種が大幅に進んだことにより、マスクを外せる場面などを設定した新しいガイドラインが提示されました。感染リスクが高い場面では感染対策を遵守して、感染リスクが少ない場面では通常の生活に戻すというメリハリが効いた感染対策へ移行しています。

- レジリエンスを高めるコミュニケーション

今後も感染症のみならず、災害や健康危機など多くの社会的リスクが、必ず地域や観光業界に対して大きな影響を与えます。今回の経験を踏まえて、地域におけるリスクコミュニケーションの基盤を整備することで、今後どのような事象が起きても、地域で柔軟に対応して、地域を守りつつ、素早く観光を再開することが可能になります。地域としてのリスクコミュニケーションを確立するプロセスとして使用して下さい。

- 差別に関する徹底的な対応

この冬も、地域やインバウンドにてクラスター感染が起きることが予想され、小さい地域だと名前や場所が自然と特定されることが多くなります。感染対策が緩和されると、マスクをしていない人に対して複雑な気持ちを抱くと思います。しかし、みな自分の人生を精一杯生きているのであり、悪いのは人ではなくウイルスであり、またウ

イルスと共存していくしかない方法がないことも考えてみて下さい。陽性者や濃厚接触者に対する差別はいかなる場合も許されないことを明記します。

2. 感染予防策

厚生労働省及び、北海道、旅行業界団体のガイドラインを参照して、以下の感染予防策としました。なお、各施設のガイドラインにて、下記より強い感染対策を実装することは可能です。訪日する外国人には、日本で治療もカバーする旅行保険に加入することを強く推奨します。地域や旅行者の安心や安全につながる事なので、宿泊施設や交通機関でも予約の受付の際に、以下の5つを提示して推奨して下さい。

2.1 マスクの着用

- 屋内・屋外において、マスク着用は個人の判断とする
- 医療機関、高齢者施設、混雑した交通機関ではマスク着用を推奨する

2.2 手指消毒

- 定期的に、手指をアルコールによって消毒する
- 定期的に、手洗いをを行う

2.3 社会的距離

- 肩が触れない一定の距離を保つ
- 収容人数に関する規定は、特に設定しない

※ 社会的距離の確保が可能であれば、アクリル版の設置は必須ではない

2.4 体温と健康の確認

- 施設の入口や体験事業では、体温の測定を推奨する
- 宿泊施設や体験事業では、健康状態の確認を推奨する

※ 発熱や症状がある場合には、発熱外来の受診を勧める（サービスを拒否できます）

※ スタッフも勤務前に、発熱と症状がないことを確認する

2.5 換気

- 人が集まる場所では、30分に1回以上の換気を推奨する
- 換気が難しい場合には、空気清浄機の設置を考慮する

※ 冬季に感染症が増加する原因に換気不十分があるので、換気に注意すること

3. 発熱時のフロー

- 重症化リスクが少ない人は、以下のフローとなります。

1) 抗原検査または PCR 検査の陽性にて、自宅療養となる

※ 新しいガイドラインにて、必ずしも発熱外来を受診する必要はありません

2) 北海道健康陽性者登録センターにて、自身で陽性登録を行う

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kst/124211.html>

- 重症化リスクが高い人、以下のフローとなります。

- こども（小学生以下）
- 妊婦
- 基礎疾患がある方
- 高齢者

1) 速やかに発熱外来やかかりつけ医を受診すること

2) 医療機関からの保健所への届出が必要となり保健所の指示に従います

- 訪日外国人も上記と同じフローになり、以下が対応窓口になります。

北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター（発熱や有症状時）

0120-501-507（フリーダイヤル、24 時間）

北海道陽性者健康サポートセンター（陽性にて体調が悪化した場合）

0120-303-111（24 時間）

4. 療養の解除（令和 5 年 3 月 13 日現在）

- 無症状の場合は、検体採取日（0 日として）から 8 日目に療養解除となる
 - なお、5 日目の抗原検査陰性の場合には、6 日目に解除可能
- 有症状の場合は、以下の条件を満たした場合に療養解除となる
 - 発症日（0 日として）から 8 日目
 - 症状改善から 24 時間以上経過

5. よくある質問

- スタッフまたは訪日外国人が発熱した場合は、どうすれば良いでしょうか？

まずは、自宅または部屋にて待機となり、検査の段取りを行います。こども（小学生以下）、妊婦、基礎疾患がある方、高齢者の場合は、地域の発熱外来を速やかに受診して下さい。それ以外の方は、抗原検査または PCR 検査にて陽性になった場合は、ホテル等の部屋にて指定の期間の療養が必要となります。療養期間は、公共交通機関が使用できないので、旅行日程のリスケジュールと、同室に滞在する方の濃厚接触者検査が必要となります。発熱や症状あったスタッフも、検査が陰性で、かつ発熱や症状が回復した場合には現場復帰可能です。

- ゲレンデでは、マスクをする必要はありますか？

屋内外では、原則マスクを装着する必要はなく、コンドラでもマスクを装着する必要はありません。索道スタッフやインストラクター、パトロールなど、多くの人と密に接触する場合には、高齢者や持病のある方などと接触する機会もあるので、マスクの携帯を推奨します。

- レンタル用品や施設の消毒などで注意することはありますか？

コロナ対策の消毒は、通常の清掃や消毒で良くなりました。よく接触する部分に関しては、1日に2回程度、清掃することを推奨します。ただし、陽性者が滞在した部屋を清掃する場合には、一定時間しっかりと換気した後に、マスクと手袋を着用して清掃して下さい。

- 訪日外国人は、どんなことに注意するべきでしょうか？

訪日外国人も保健所の対応が管轄になりますが、日本語の対応となりますので、通訳が必要になります。医療機関によっても、英語対応が困難な場所もあります。何より陽性者や濃厚接触者の場合は、公共交通機関での移動が制限されてしまうので、療養する場所の確保や帰国のリスケジュール、一部の国では帰国時の PCR など、旅行の調整が重要となります。繰り返しになりますが、旅行前に、新型コロナウイルス感染症の治療もカバーした旅行保険への加入を強く推奨します。

6. 参照したガイドライン

旅行業における新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン（第4版）
日本旅行業協会 全国旅行業協会 2022年12月6日

バスにおける新型コロナウイルス感染予防対策 ガイドライン（第8版）
公益社団法人 日本バス協会 2023年3月13日

外国人観光客の受け入れ対応に関するガイドライン
観光庁 2022年6月7日

スキー場における新型コロナウイルス対応ガイドライン
日本スノースポーツ&リゾート協議会 2021年12月27日

マスク着用の考え方の見直し等について
新型コロナウイルス感染症対策本部決定 令和5年2月10日

新北海道スタイルに係るマスク着用の取扱いについて
北海道知事 令和5年3月9日

※ 英語対応のために、西暦による記述に改定しています。

監修：ハワイ大学 岡田悠偉人（日本・米国疫学専門家）
一般社団法人 倶知安観光協会アドバイザー